

なら歴史芸術文化村滞在アーティスト誘致交流事業「文化村 AIR」滞在アーティスト決定

なら歴史芸術文化村では、奈良の豊かな歴史・芸術・文化を体験し、地域との交流を深めながら、新しい視点と切り口で作品制作を表現する国内在住アーティスト1名（組）を公募・選考した結果、招聘するアーティストを下記の者に決定いたしました。今後、文化村を中心とした地域（天理市・桜井市）にて、作品制作のリサーチなど行いながら新作を制作します。子どもや地域の方と楽しむワークショップも行い、土地の文化や人との出会いを大切に活動します。これからの活動にご期待ください。

招聘アーティスト 早崎 真奈美 はやさき まなみ （東京都）

<略歴>

大阪府生まれ、東京都在住。

京都市立芸術大学美術学部日本画科卒業後、ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート&デザイン卒業。

<アーティストステイトメント>

私は自然科学史と人間社会の関係性、生物の生態系に着目し、「生と死」「善と悪」「美と醜」などの二項対立を通して、人間の本質を問い直す作品を制作しています。科学的に整合しているように見える体系の中にも、矛盾や微細なエラーが潜んでおり、そこに人間特有のエゴや執着、偏見といった感情が滲み出ると考えています。例えば、「在来種」と「外来種」といった生物分類の枠組みは、生態系を守るための実用的概念である一方で、社会における排他性や境界意識とも密接に重なります。私はこうした自然と人間の間に現れる曖昧な領域に着目し、それを視覚化することを試んでいます。主な手法は、紙を用いたインスタレーションです。切り出した紙片は平面的でありながら、空間に配置されることで影を落とし、二次元と三次元のあいだを揺らぐ存在となります。その姿は、分断されたはずの対立項が、実は明確な境界を持たず、共存・交差しているという私のテーマを象徴しています。

<文化村での活動提案>

奈良での滞在制作では、古墳や山の辺の道など自然と人の営みが交差する風景をリサーチし、墨と切り絵を組み合わせた新たなインスタレーションを発表予定。地域の子どもや学生を対象とした墨や影絵のワークショップも計画している。

＜今後の予定＞

日々の活動などは文化村Instagram、X等をご覧ください。

▶滞在制作期間

2025 年 11 月 4 日（火）～2025 年 12 月 5 日（金）

▶制作場所

なら歴史芸術文化村 芸術文化体験棟 3F スタジオ 301・302

▶成果発表展

2025 年 12 月 6 日（土）～2025 年 12 月 24 日（水）

▶場 所

なら歴史芸術文化村 芸術文化体験棟 3F スタジオ 301・302 ほか

主催：なら歴史芸術文化村滞在アーティスト誘致交流事業実行委員会
（なら歴史芸術文化村・天理大学・天理市・桜井市）